

東京工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	教養選択Ⅰ（経済史入門）	
科目基礎情報							
科目番号	0121			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜、プリントを配布						
担当教員	鈴木 慎也						
到達目標							
①歴史学とは様々な歴史資料をもとに、科学的・論理的にそれらを組み立てることで、歴史的事実に迫り、その過程や歴史的意義を考える学問であるということを実感させる。 ②経済活動が人類の歴史の中で果たした役割について理解するとともに、自分なりに考察することができる洞察力を養う。 ③自ら課題を設定して調査し、自分の考えをまとめて発表する能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		到達レベルの最低限の目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	経済史を学ぶ意義を十分に理解し、様々な歴史資料をもとに、自らの考えを論理的にまとめることができる。		経済史を学ぶ意義を理解し、様々な歴史資料をもとに、自らの考えをまとめることができる。		経済史を学ぶ意義を理解できている。		経済史を学ぶ意義について、理解が不十分であり、歴史資料をもとに、自らの考えをまとめることができない。
評価項目2	経済活動が人類の歴史の中で果たした役割について、十分に理解し、自分の言葉でまとめることができる。		経済活動が人類の歴史の中で果たした役割について、十分に理解できている。		経済活動が人類の歴史の中で果たした役割について、理解できている。		経済活動が人類の歴史の中で果たした役割について、理解が不十分である。
評価項目3	自ら課題を設定して調査することができ、それを論理的にまとめ、発表することが十分にできる。		自ら課題を設定して調査することができ、それをまとめて発表することが十分にできる。		自ら課題を設定して調査することができ、それをまとめて発表することができる。		自ら課題を設定して調査すること、および、それをまとめて発表することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「経済」を通して歴史を学ぶ意義は、各時代、各地域の人々の具体的な生活の様子を理解することができるといえます。教科書等で学ぶ歴史は、どうしても政治史が中心となってしまうがちです。本講座では、為政者だけではなく、当時を生きた多くの民衆の経済活動に注目することで、各地の文化や生活様式がどのようにして形成されたかを学んでいきます。						
授業の進め方・方法	前半部分では講義形式を中心に授業を進めていく。適宜、授業で扱ったテーマに関して、学生らにも考えをまとめ発表してもらう機会を設ける。後半部分では、前半の講義を参考にしながら、学生自身が興味をもった経済の歴史を調べるとともに、それらが社会に与えた影響について、自分の考えを交えながら報告を行ってもらう。 ※この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として、チームプレゼンの事前準備や配付プリントを用いた振り返りを行うこと。						
注意点	①必要に応じてプリントを配布するので、なくさないようにして下さい。 ②チームプレゼン・レポートに取り組まなかった場合は、学年末評価が単位不可となります。 ③配付プリントはワークシート型式のものがメインとなります。ですので、授業内容については各自が重要だと思うところを適宜メモを取るようになって下さい。ワークシートの取り組み方、メモ取り方などもポートフォリオとして評価対象となります。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			歴史学と関連諸学について、それぞれの特徴を理解し、それらがどのように関連しているのか理解する。	
		2週	お金の歴史（１）お金とは？			お金の機能とその歴史について概観しながら、貨幣の起源説である商品貨幣起源説と信用貨幣起源説を理解する。	
		3週	お金の歴史（２）紙幣とは？			紙幣の起源とその歴史について理解することで、金本位制と管理通貨制の違いについて考察する。	
		4週	お金の歴史（３）仮想通貨とは？			仮想通貨や電子マネーなど近年登場した新たな「お金」のそれぞれの特徴を理解することで、今後の「お金」について考察する。	
		5週	お金の歴史（４）金利・利子とは？			金利・利子について理解するとともに、銀行の歴史を概観することで、様々な金融商品について基礎的な知識を獲得する。	
		6週	お金の歴史（５）株式とは？			株式会社の歴史とその仕組みについて理解する。	
		7週	お金の歴史（６）国債とは？			国債の起源とその歴史について概観しながら、現代社会における各国の国債の状況について理解する。	
		8週	経済から見た歴史①			これまでの授業を踏まえて、各自がテーマを設定し、それについて調査した内容をプレゼンする。	
	2ndQ	9週	経済から見た歴史②			これまでの授業を踏まえて、各自がテーマを設定し、それについて調査した内容をプレゼンする。	
		10週	経済から見た歴史③			これまでの授業を踏まえて、各自がテーマを設定し、それについて調査した内容をプレゼンする。	
		11週	経済から見た歴史④			これまでの授業を踏まえて、各自がテーマを設定し、それについて調査した内容をプレゼンする。	
		12週	経済から見た歴史⑤			これまでの授業を踏まえて、各自がテーマを設定し、それについて調査した内容をプレゼンする。	
		13週	世界経済史概説（１）			18世紀～19世紀の世界経済の歴史について概観する。	
		14週	世界経済史概説（２）			20世紀前半～戦中の世界経済の歴史について概観する。	

		15週	世界経済史概説（3）		戦後～現代の世界経済の歴史について概観し、現代社会が直面している様々な課題について考察する。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前13,前14,前15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前13,前14,前15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12

評価割合							
	試験	発表	相互評価	レポート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	30	10	0	100
基礎的能力	0	30	0	20	10	0	60
専門的能力	0	30	0	10	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0